

傘寿談議

還暦・古希・喜寿談議そして

文・写真 (株)地域サービス代表取締役

永井 英彰

若夫婦、大阪から穴吹に移住 徳大生45人の山間部研修に参加

訪ねた人とはったり

11月29日、徳島大学1、2年生45人（引率橋本直史准教授）が美馬市穴吹町口山へ研修に行った。講師役の徳島剣山世界農業遺産支援協議会副会長・林博章先生と共に、筆者もJR穴吹駅から参加、途中、西谷の新織さん方でソバや小豆などの干物を見学した。道を挟んだ直ぐ上に、今月大阪から鳴門経由で移り住んできた若夫婦一家が居ると聞き、早速訪ねた。留守だったので名刺に「会いに来た」と書いて郵便受けに入れた。2キロ余りを共に歩



徳大生45人と山歩き



穴吹町口山に移住した久保さん一家



豚汁のお接待（淵名で）



五劫院（上）と髪形がユニークな本尊（下）



国宝十二神将像を持つ新薬師寺

いて猪瀧のお大師さんまで来ると、地区の20人程が出てぼた餅とお茶で接待してくれた。そこに若夫婦と幼子が居た。その一家こそ先程筆者が訪ねた久保尚・真由ご夫婦とお子さんだった。

更に歩いて淵名へ。ここでは、ミシマサイコウという漢方薬の原料を委託栽培していた。実も根も共にキロ4千円で引き取ってくれるという。ここでは小泉さんら地区の皆さんが豚汁を振る舞ってくれた。身体が冷えていたので、お代わりまでして山の幸を満喫した。一行は更に山を登り、肥ダ

口を見学したが、足を痛めた女子学生がいたので、筆者は「これ幸い」とその学生に付き添って、下に止まった。青森出身のお母さんが「何時でも泊まりにきて」と女子学生を誘ったら、「担当の先生に許可を貰ってからにする」と返事。筆者なら「直ぐに電話を訊いて仲間を誘ってお邪魔する」と囁いた。

学生の理解力に驚く

その日夜、その学生から要旨次のようなメールが届いた。

今回のツアーでは傾斜地における循環型農業という

興味深い農法について学ばせて貰った。山の上から水が出るという利点を活かしかやを使った豊かな土によって作られた野菜。ニホンミツバチによる植物の自然な受粉や副産物としての蜂蜜。地滑り防止のための竹林を農具に使う事。それら全体が複合的な農業として機能しているシステムの一端を垣間見ることができた。特にハチミツが薬の効用を持つという話は印象に残った。道中でおもてなしを受けた果物も野菜も、素材本来の味がして、ぼた餅も豚汁も本当に美味しかった。クズの葉を繊維として利用する事、竹を肥料として利用する事、農産物の加工など応用できる事業は多くあると思う。このソラの畑と食べ物の魅力を広める活動に取り組む際は、私も協力したい。

一度山に入っただけで、ここまで理解してくれると

は、ギブ&ギブで案内した甲斐があったというものである。

奈良へ研修旅行

徳大生に同行した前日、四国大学・万葉集の公開講座の「奈良を旅する」研修旅行があった。墨の資料館・がんこ一徹長屋を見学した後、まず訪れたのは五劫院（奈良市北御門町）。ここは鎌倉期（13世紀）に東大寺を再興した重源が開山した寺で、本尊は五劫思惟阿弥陀仏如来像（重文）。劫とは永遠・無限を指す。本尊は四十八の大願を成就するために、長い間剃髪することも無く座禅・思惟していたので、アフロヘア的な髪形になったという。ここで私たちは本尊を拝観することができた。

十二神将像は国宝

以前も行ったことがある奈良公園の古都屋で昼食の後、新薬師寺（高畑町）を拝観した。ここは奈良時代（8世紀）創建の官立寺院で、光明皇后が夫聖武天皇の病氣平癒のために建てた（東大寺要録）。別の伝承では、聖武天皇が光明皇后の眼病平癒のために建立したとあ

る。本堂と木造薬師如来座像、塑像十二神将像が国宝である。

隣接する鏡神社の由緒は祭神の一人である藤原広嗣の歌・桜花を娘に贈って「この花のひとよのうちに百種の言そ籠れる おほろかにすな」(万葉集巻8 1456)とある。

正暦寺は御開帳日

最後は正暦寺(菩提山町)。正暦3(992)年、一条天皇の勅命により兼俊僧正(藤原兼家の子)によって創建された。治承4(1180)年、平重衡の南都焼き討ちの際、類焼して全山類焼した。その後、再建されたが、現在では福寿院客殿と本堂・鐘楼を残すだけとなっている。ここは日本酒発祥の地で、荘園から製造していた。

重文の本尊金銅薬師如来奇(人偏を付ける)像は秘仏とされているが、私達の拝観日はたまたま瑠璃殿(宝



正暦寺の秘仏・金銅薬師如来倚像



マークさんのパーティー(帝国ホテル)



徳島から参加の女性陣と



春画展でにぎわう永青文庫



西川政善さんの出版会

市在住)の来日45年を祝う式典が、東京・帝国ホテルで開かれた。徳島勢13人を含めて3百人もの出席者があった。総理大臣夫人・安倍昭恵さんを見掛けて挨拶したが、デビ夫人もいた。マークさんは体調不良のようで、挨拶の途中、椅子に座って挨拶を続けた。45年という中途半端な時期にパーティーを開いたのは、体調が影響したのかも知れない。徳島勢では徳島剣山世界農業遺産支援協議会副会長の林博章先生が挨拶、鴨島町の吉野美苑さんが白紙に「神」と大書するイベントや中内正子さんの三番叟が披露された。

この日、東京池袋で中央大学同期5人の同窓会を開いてくれた。しかし、時間が間に合わないの、筆者は余分に航空券13500円を払い別の便に乗り参加した。午後2時から5時まで同窓会で過ごし、午後6時からマークさんのパーティーに出席、その夜は東京りんかい線・品川シーサイド駅前の「ハートン東品川」というホテルに泊まったので、結構忙しかった。

同窓会を2日に済ませたため、3日が丸々空いた。そこで文京区目白台の永青文庫(細川護理理事長)で開催中の「春画展」へ出かけた。大英博物館からの特別出品も含め、約150点が4階から2階まで埋め尽くしている。平日にもかかわらず、若い女性も多く、ごった返していた。21日、開幕から84日で見学者が20万人を突破した。

春画は人間の性愛を描いた浮世絵の総称。歌川国貞、鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、葛飾北斎など、浮世絵の大家達の作品が目白押しである。余りにも多くて不感症になったが、色使いの鮮やかさは素晴らしかった。

この後、バスで上野に行き、上野の森美術館で「肉筆浮世絵 美の競演」を見た。こちらも喜多川歌麿や葛飾北斎ら浮世絵師たちが描いた江戸美人100選。音声ガイドを借りて鮮明な色彩の美人達を見て回った。この夜、品川プリンスホテル39階のラウンジで旧友と会い、東京タワーの夜景を楽しんだ。

西川さんが新刊本

元小松島市長で文理大学教授の西川政善さん(73)が「地方から見る『日本政治』1考察」を出版、12月6日に徳島駅前・阿波観光ホテルで講演会と出版披露及び祝賀会を開いた。講演は徳島白門会の主催、講師は西川さんの同期、国際政治学者・堀本武功さんで、「アジアにおける日印関係」だった。西川さんは昨年、「阿波戦争」を出版している。

なお、筆者はこの正月で満78歳となりました。従って「喜寿談義」から「傘寿談議」へと昇格させて頂きます。